



1 はじめに

映画・TVドラマ等で話題となった「この世界の片隅に」の舞台になった主人公すずさんの嫁ぎ先である上長ノ木町（現在の東惣付・畝原町）は、広島県呉市第5地区内の高台にあります。

呉市第5地区内は24自治会の集合体で約4,000世帯、人口約8,300人です。

市内中央から灰ヶ峰山腹に至る帯状の地域で、高地部はもろい地盤の急傾斜地が多く土砂災害が発生する恐れがあり、エリア内に7つの中小河川を擁して平地部では浸水災害が発生する恐れがある上、地域内は、尾根により、東西に分断され、小学校が2校（但し、地域内は、4小学校区・4中学校区に分割）、災害時の避難所は大小4か所と複雑な地域となっています。

2 自主防災会結成のきっかけ

平成11年6月の豪雨災害で地域が被害を受けたことを契機に防災意識が高まり、平成20年呉市第5地区まちづくり委員会結成に伴い、本格的に地区全体の防災活動を開始しました。設立当初は、防災計画を作成したり、防災会議を開いたりとし、机上の取組が中心でした。災害が起きた時に、地域の人たちと連帯して取り組む「共助」の精神が必要だと思い、平成22年度「自主防災会」設立を提案し、平成25年までに地区内24自治会全てに自主防災会が設立されました。

3 避難所等などに 防災用品器具類の整備

自治会ごとに、身近な地域の公園などで実践的な活動ができるように防災倉庫や防災用品を、避難所ごとに折り畳み式会議用机、冷暖房器具、テント、ござ、車いす、発電機、移動式のかまどを準備しています。

4 知識と実践を融合

情報交換などによる知識習得や、整備も大切ですが、いざというときに、住民一人ひとりが行動できるかは、日頃からの訓練にかかっていると思います。そこで自主防災会結成時より、災害が実際に起きたとき、何をしたらよいのかを意識した「防災訓練」を、市消防局などの協力を得ながら行い、実践を上手に融合させることに取り組んでいます。

5 幅広い世代の訓練参加を…

当地区の防災訓練は幅広い世代が参加



体育館にゴザを敷いて避難所形式で防災訓練

していることが特徴です。大きな災害が起きた時、避難所の拠点となるのは地元の小学校です。学校とも連携し、学校行事と重複せず、かつ多くの参加が見込める終業式後に行うなど工夫したのです。すると多くの小中学生や幼稚園児、隣の地区からの参加もあり、毎回400人規模の訓練ができ、防災への関心の高さを実感しています。

6 より本番を意識した訓練を

訓練内容も年々充実してきており、避難訓練、防災講演、炊き出し、煙中体験や消火訓練、暴風雨の擬似体験アトラクション、ロープ結索、搬送、救急訓練など盛り沢山となっています。中学生が、各訓練コーナーで中心的な役割を担い、



中学生が園児の消火訓練指導



実戦に役立つロープ結索訓練



女性会による炊出し訓練

特に幼稚園児、小学生の面倒を見てくれたりするなど、訓練を通して成長してくれることは嬉しいことです。

女性会による炊き出しや民生委員児童委員による避難所受付・連絡などまちづくりを共に担う人たちの得意分野も生かしつつ、一人ひとりが自主性をもって行動できることを目標に訓練を重ねています。

7 要介護者の避難が課題

坂道や狭い道が多いこの地区では、外からの応援を待つだけでは、いざというとき対応できないのです。また高齢化率が高く、特に一人暮らしの要介護者の避難は今後の課題です。

これらを解決するには、「共助の精神」がとても大切で、普段から地域や近所の連携など効果的な体制づくりを今後模索していきたいと考えています。

